

中長期ビジョンと今後の方向性

「人と鳥の共存－Harmony among Birds and People－」

多くの市民が、鳥をきっかけに身近な自然へ興味を持ち、理解を深め、地域への愛着を育むことができるような活動を続けることが使命です。

◎楽しく、学びが得られ、役に立ち、鳥が好きになる博物館

これまで鳥や自然に関心を持っていなかった人が、鳥や身近な自然に興味を持ち、理解を深め、愛着を持つことができる博物館を目指します。

・来館者・参加者が「楽しかった」「興味がわいた」と思えるよう様々な手法を取り入れた展示・イベントを行います。

⇒方向性: ICT、標本、ジオラマを活用し、体験型の展示を導入する。また、新たな体験型イベントを検討する。

・市民が情報を得たい時に、いつでも気軽に得られるように、わかりやすくこまめな情報発信や相談しやすい体制を整えます。

⇒方向性: わかりやすい解説、ユニバーサルな視点でパンフレット等を作成・提供する。SNS やホームページ等により博物館活動について広く情報発信を行う。

・博物館利用者へのホスピタリティーを向上させ、利用しやすくします。地域に根差した博物館を目指します。

⇒方向性: 学芸員や展示交流スタッフによる解説や質問への対応も引き続き行う。水の館をサテライトミュージアムとして活用するなど博物館にいざなう工夫を検討する。

・最新の情報の収集に努め、質の高い情報を提供し続けることで、“役に立つ”博物館としての信頼を高めるようにします。

⇒方向性: 継続的に情報のアップデートを行い、正確な情報を提供する。

・鳥に興味を持ってもらう一手段としてミュージアムショップの活用を図ります。

⇒方向性: ミュージアムショップの魅力向上

商品開発を行う、あるいは品揃えを充実させるなど、また来たいと思わせるショップづくりを目指す。

◎鳥類標本のコレクションを活用し、質の高い教育普及活動を行う博物館

・自然史博物館にとって、標本は未だ解読されていない無限の情報を含んだ記録であり、時間を越えた人類の共有財産です。鳥の博物館では、現在約 3,000 点のコレクションを所蔵しています。また、標本になるのを待つ斃死鳥も約 3,000 点保有しています。これらの鳥類標本を企画展示などの教育普及活動で活用します。また、増え続け

る標本を収蔵するスペースを工夫して確保していく必要があります。

⇒方向性：**収蔵標本の活用、標本製作・標本講習生制度の継続**

これまでに収集した標本をできるだけ多く展示し、教育普及活動で活用していく。これらの標本製作を併せて進め、できるだけ多くの標本を展示できるようにしていく。

◎鳥の科学と地域の自然の情報センターとなる博物館

・鳥の科学に関するあらゆる情報と鳥をはじめとする地域の自然に関する情報を収集整理、公開するなど、誰もが参照できるように努めます。

⇒方向性：**情報の収集、集積、提供の継続**

関係者や関連機関と連携し、世界水準の最新情報を紹介できるようにする。

定点観察や外部機関の観察情報の収集、また標本の継続的収集により、地域の自然史情報を蓄積し発信する。

・地域の自然史情報に関しては、保全のための基礎情報を提供できるようにします。

⇒方向性：**フィールドミュージアムの推進**

鳥の博物館周辺の自然を博物館の展示の延長ととらえ、定期的に生き物の観察案内をして、身近な自然への関心と理解を深めようというフィールドミュージアムの推進も継続して行っていく。

◎つながり、ひろがり、進歩する博物館

・地域や他機関と連携し、社会の要請に対応出来る博物館を目指します。鳥の博物館としての役割を果たすため、さまざまな関連機関と連携できるように努めます。

⇒方向性：**関連機関、施設、部署との連携の継続・強化**

引き続き情報収集を行い、各博物館や大学等と研究成果の共有を継続していく。

山階鳥類研究所とは、引き続き企画展、鳥のサイエンストーク、鳥学講座を共催するとともに、新たな連携も検討していく。

水の館にある手賀沼の鳥を紹介するコーナーを鳥の博物館のサテライトミュージアムと考え、情報提供を続けるとともに、連携事業を検討する。

・博学連携にも力を入れ、特に市内の小中学校での活用を促すことができるようにします。

⇒方向性：**博学連携の促進**

現在、小中学校との連携事業として、小中学校科学作品展出展作品の展示、夏休み期間中の自由研究相談、依頼に応じて教諭の研修受け入れ、出前授業を行っている。さらに学校で利用してもらえるようなプログラムを検討していく。

- ・市民団体との協力関係を持続するとともに、これまで博物館に関心を持たなかった市民層にも、各種イベント等を通じて博物館へ目を向けてもらい、博物館活動を支援してもらえるように努めます。

⇒方向性：**市民団体への活動支援**

鳥の博物館友の会の実施活動を支援し、市民スタッフが研鑽を積む場を提供するなど活動環境を整えていく。

- ・インターネットが普及し、世界的に情報を発信できるようになりました。博物館の活動に賛同する人的・財政的な支援者を全国に増やし、博物館の活性化に寄与できるように努めます。

⇒方向性：**デジタルアーカイブの取り組みを強化・ファン増加の取り組みを行う**

博物館の活性化に寄与できるよう、引き続きインターネットを通じた情報発信を行う。剥製や骨格標本等の資料をデジタルアーカイブとして公開し、市民が自由に標本を閲覧できるようにする。山階鳥類研究所と連携した標本資料のデータベース化を継続する。鳥の博物館独自の映像データ公開も引き続き行うなど、取り組みを強化していく。